

1月10～11日
**教員の仕事ややりがいを学ぶ
 小・中学校にインターンシップ | 弟子屈高校**



弟子屈高校（濱村隆康校長）では、1月20日、21日の2日間にわたって弟子屈小学校（大西展史校長）、弟子屈中学校（木村郁夫校長）で授業見学や補助などを行いました。

この事業は北海道教育委員会の主催で行われたもので、小・中学校などでのインターンシップを通し、教員の魅力を知ることが目的として行われました。生徒4人がキャリア教育の一環として参加し、それぞれの学校で道徳や体育の授業に参加したほか、休み時間などには生徒と交流するなど、子どもと直に触れ合う貴重な機会となりました。

カメラスケッチ
**広報マンが
 行く!!**

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけつけます。お気軽にご連絡ください。

まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913 (課直通)

2月12日
**食べて飲食店を応援！
 「食べて応援！弟子屈エール弁」を実施**



町職員有志による「食べて応援！弟子屈エール弁」の取り組みが行われ、2月12日に1回目のお弁当が届けられました。この取り組みは新型コロナウイルス感染症の影響を受け観光客が減少している飲食店のお弁当を食べて応援しようといわれたもので、毎週金曜日に仕出し弁当などを注文。昨年の4月から6月にかけても同様の取り組みが行われていました。この日はおよそ町内の8店舗から125食が届けられました。3月26日までの毎週金曜日に計6回実施する予定です。

2月2日
**まちづくり計画の確実な推進を
 町総合計画町民評価委員会から意見書が提出**



町総合計画町民評価委員会（上村剛志委員長）から2月2日、令和2年度町民評価委員会意見書が徳永町長に手渡されました。町民評価委員会は、第5次弟子屈町総合計画の実施状況などを点検し、町長に対し意見や提言を行います。今回は、令和元年度に実施された町の事務事業を点検し、屈斜路の活用、特産品の開発の推進、情報発信など16項目について提言しました。意見書を受け取った徳永町長は「まちづくりを進める上で町民の皆さんからの意見は非常に重要。この意見書内容を今後のまちづくりに活かしていきたい」と話していました。

2月20日
**寒い冬を遊びつくす
 森のスノーパークを開催**



えこまち推進協議会エコツアー推進部会（藤原仁部会長）主催の「森のスノーパーク」が2月20日、川湯エコミュージアムセンターとその周辺で開催され、町内外から約230人が参加しました。今年は弟子屈高校（濱村隆康校長）の生徒が企画から参加。当日もスタッフとしての参加やフィールド探究の発表など、多くの場面で活躍しました。会場では、地元ガイドの指導のもと、雪原をスキーで滑るクロスカントリースキー体験やホーストレッキング体験、ティピーテントでのたき火など、冬ならではの体験メニューを多くの方が楽しみました。

2月15～16日
**令和2年度釧網本線活性化事業
 美留和駅の活用を検討する実証実験を実施**



町は釧網本線美留和駅の活性化事業として、美留和駅の活用を検討するための実証実験を2月15日から16日の2日間、美留和駅前で行い、町内外から約60人が参加しました。当日は駅前リゾートスタイルのキャンプ用のグランピングテントとサウナ用テントが設置され、町内産のジャガイモを使用したイモ団子入りの温かいおしるこがふるまわれました。また、参加者には美留和駅に関するアンケートも実施され、参加者同士などで美留和駅の今後についてリラックスしながら話し合われました。今後はこの調査結果なども参考に駅の活用について検討されます。

郵便局でさまざまな催し

田澤淳子さん写真展「弟子屈町の冬風景」
 全日本年賀状大賞コンクール応募作品展
 絵手紙摩周湖年賀状作品展
 王鵬ミニ応援コーナー



番付表や手形を展示



作品を熱心に見つめる来局者



色とりどりの年賀状が



写真展ではグッズの販売も

町内の郵便局では、1月上旬からさまざまな催しが行われました。屈斜路郵便局（三塚勝也局長）と弟子屈郵便局（藤原将男局長）では1月4日から28日までと、2月1日から26日までの間、それぞれ町内在住のフォトグラファー田澤淳子さんの写真展「弟子屈町の冬風景」が開催され、町の冬をテーマにした幻想的な作品14点が展示されました。

弟子屈郵便局では、同写真展のほか、1月4日から29日まで全日本年賀状大賞コンクール応募作品展を開催。弟子屈小学校の児童38人による、新春らしい縁起物と温かいメッセージが描かれた力作が展示され、来局者の目を惹きつけました。

また、1月5日から19日にかけては絵手紙摩周湖（藤原直美代表）年賀状作品展が今年も開催され、干支やお正月、季節などが題材として描かれた、手書きならではのぬくもりのある作品が展示されました。

また、新十町として1月場所に臨んだ王鵬にエールを送ろうと、「王鵬ミニ応援コーナー」も初場所終了後の25日まで開設されました。コーナーには王鵬の手形や写真のほか、番付表や対戦相手、決まり手などを記した勝敗表も付けられました。

町の話



CloseUp Topics

極寒の中芸術に触れる

11th極寒藝術祭2021 in Teshikaga



大きな作品に歓声が



見守られながら楽しく制作



リー・クーチェ（台湾）さんの作品「Snow Words」

2月12日には美留和小学校（松田芳臣校長）の児童4人が作品の見学と同美術館を訪れ、今井部会長から丁寧な作品の説明を受けました。作品鑑賞後は児童による作品づくりも行われ、同校6年生の八幡晴輝君は「新しい体験ができてとても楽しかったです。また参加したい」と笑顔で話していました。

作品展示は3月3日（水）まで行われますので、ぜひ足を運んでみては。

2月8日には同クラブとの共同事業として、認定こども園ましゅう（鈴木幸榮園長）で芸術体験ワークショップを開催。その組の園児35人が、卒園記念制作として陶器のカップにそれぞれ絵付けを行い、世界にひとつだけの素敵なカップが出来上がりました。同クラブ会員も会場に集まり、園児が楽しそうに制作する様子を見守りました。

2月8日には同クラブとの共同事業として、認定こども園ましゅう（鈴木幸榮園長）で芸術体験ワークショップを開催。その組の園児35人が、卒園記念制作として陶器のカップにそれぞれ絵付けを行い、世界にひとつだけの素敵なカップが出来上がりました。同クラブ会員も会場に集まり、園児が楽しそうに制作する様子を見守りました。

えこまち推進協議会（会長：徳永町長）のアート&アドボカシー（副会長：今井善昭部会長）主催、弟子屈ロータリークラブ（木暮敏男会長）共催の「極寒藝術祭」が、2月2日から始まりました。雪杜野外美術館とアトイン極寒藝術伝染装置内で、世界各国の現代アート作家による多くの作品が展示されています。

2月8日には同クラブとの共同事業として、認定こども園ましゅう（鈴木幸榮園長）で芸術体験ワークショップを開催。その組の園児35人が、卒園記念制作として陶器のカップにそれぞれ絵付けを行い、世界にひとつだけの素敵なカップが出来上がりました。同クラブ会員も会場に集まり、園児が楽しそうに制作する様子を見守りました。